

第65次 長崎高教組・長崎私教連 県教育研究集会

灯火親しむ秋、学習の秋、そして実りの秋



発行 長崎市中川2丁目2番5号
 〒850-0013 長崎高教組会館
 長崎県高等学校教職員組合
 (095)-827-5882
 FAX (095)-826-2976
 編集者 小田 誠
 購読料 一部10円
 組合員は組合費に含む
 メールアドレス naga-kks@fsinet.or.jp

秋の教研を11月25日、諫早市高城会館で開催しました。1日開催になって3年目で、午前中に開会行事と記念講演、午後には教科別分会を行い、64人が参加しました。

8月に高教組青年部の再建総会が開かれ、続けて「しやべり場」で青年教職員の子どもや教育へのさまざまな思いを交流し、社会への働きかけなども話題になりました。この動きを停めることなく秋の県教研につなげるため、各教科の民主教育推進委員や青年部が過去のレポートを一覧を掲載した分科会案を発送し、記念講演

「集まれば元氣、語りあえば勇氣」です。青年教職員は「自由な学び」を求めていることを強く感じました。

「集まれば元氣、語りあえば勇氣」です。青年教職員は「自由な学び」を求めていることを強く感じました。

「M3」から見た部活動とは

城 知哲さん
 長崎新聞社編集局報道部長

「ブラック部活」という言葉とともに部活動指導してきた部活動の長所・効果や弊害そして指導の際の注意点を柱にした内容が関わっています。外部からの視点で部活動についてお話しを聞くというところで、長崎新聞の城さんに講演していただきました。その一方で、弊害として教職員の超勤と高

校の増長等、部活動にいて関心が高まっていることを、オフレコでの発言も交えて指摘されました。現場で感じていることもシンクロしている部分も多く、講演の途中、講演後に多くの質問がござい、予定した2時間が過ぎてしまいました。質疑、意見と同様に多くの感想が寄せられました。抜粋して紹介します。

部活動を持つというところが、世間一般に対しても責任を持つということになるというところに重さを感じました。学校関係者以外の方でも、高校生のスポーツに関わってくださっている方のお話は鋭い視点もあり、興味深く聴きました。「社会の中で通用する人を育てて欲しい」、これは部活動だけではなく教育の一番の目標だと思います。自分のことしか見えていない子どもたちも多く、今日のお話でも再度考えさせられました。

部活指導についてネガティブな面がクローズアップされているが、本来は楽しいものであると思いますので、「部活指導は楽しい!!」という面もマスコミでとりあげていただくと見方も変わると思っています。

部活動の長所・効果について、我慢強さを養うこと、責任感・協調性を持つリーダースキップを育てること、大いに共感しました。部活動の弊害が大きく取り上げられるようになり、これまで多大な貢献を果たしてきた部分に関して批判が集まっています。今一度、その役割を再認識しきちんと教育活動の中に位置づけることが必要なのかと思います。

午後の教科別分会は、国語・社会・数学・理科・外国語・保健体育・学校図書館教育の7つの分科会に、23本のレポートが提出され、47人が熱心に学び合いました。詳しい報告は、年度末に発行予定の教文誌「長崎の教育」に期待するとして、参加者の感想をもとに簡単に報告します。

【国語教育】国語は進学校、工業、商業、農業、総合学科、市立、特別支援学校と幅広い学校の先生方が集まり、様々な視点で話の中心はやはりアクティブ・ラーニングであり、答えのない話をとりとめなく話すことができ、とても有意義でした。

【理科教育】10人の参加者で、4本のユニークで楽しい授業のレポートをもとに楽しく学びました。

【社会科教育】「原爆はどのような語られてきたか」と題する映像によるレポート、総選挙に関わるレポート、

【保健体育教育】レポートはありませんでしたが、盛り上がりがありました。今の子どもに欠けているコミュニケーション能力はスポーツや遊びといった身体活動を通して育てる可能性があり、とりわけ体育の役割は大きい。そのためにどう指導をすすめていけばよいかなどについて話し合いました。

現状や実態によくフィットした講演でした。○「マスコミから見た部活動」、興味深く聴かせていただきました。何回も残業100時間超過は何回もありませんが、そうせざるを得ないという状況だったと思えます。2人顧問がいつも交替しながらというのはなかなか難しいので、やっぱり主がやらなければと思ってしまう。これまでの部活動指導の反省点をあれこれ考えながら聴かせていただきました。今後、健全な部活動が全国的に広まるといいなと思います。そして真のスポーツの楽しさを味わってほしいと思います。

【外国語教育】未組の青年と共同研究者を交えて、4本のレポート大いに盛り上がりがありました。

【数学教育】具体的な問題の指導について意見交換をしました。

【理科教育】10人の参加者で、4本のユニークで楽しい授業のレポートをもとに楽しく学びました。

【学校図書館教育】今月初めて参加させていただき、県主催の研修会では発言できないことも多々あり、みなさんの本音を聞けてよかったです。なかなか現場の意見を率直に言う機会がないので、このような機会に声をかけていただけたのはとてもありがたいです。・学校司書が集まる研修会とはまた違う角度から学校図書館や学校司書のことを考えることができ、貴重な場としたいと思います。学校司書が先生方に「必要とされている」と感じることが励みになり、もっと役に立つ学校図書館にしたいというモチベーションになりました。また勤務形態などについて知ることは、この場しかなか貴重な場です。他校の具体的な事例を知ることでも、勉強になりました。・各校の現状や取組を知ることができました。改めて自校の運営についても考え直す機会になりました。また雇用問題等についても不安に思うことがありました。今回そういった話についても取り上げていただけたので、知ることができてよかったです。

組み合わせは あいふれあい たかめあい

確定交渉第2回交渉

「長時間労働ストップ」改善を求めた長崎高教組の回答を具体化する交渉

高教組は11月17日、確定交渉の第2回交渉を行いました。交渉には、本部執行部4人と、前田諫早支部長・砂田長工全日分会長が参加し、県教委は柴田教職員課長、鶴田人事管理監、他6人が対応しました。交渉では、第1回交渉と同様、「長時間労働是正」「臨任の待遇改善」「現給保障の延長を重要課題としてその実現を求めました。その主なやりとりは次のとおりです。

○長時間労働是正 前回の交渉で教育長が、土日の学習指導のあり方に関して一定の目安を設定することに同意した。このことについて検討する必要性を認められたが、検討したのか。県中では超勤が減っている学校もある。進路指導の内容も学校それぞれでやり方があるので、一律にどうこうというのは言いにくい。

※この後、高教組は、各学校だけでは決められない全県的な取り組みにかかわる業務削減を検討すべきだと指摘し、県一斉模試や就職模試、各種研究大会のあり方の見直しを校長協会にはたきかけるとも、近年激化している生徒募集のための業務に歯止めをかけるための目安の提示などを求めました。

○臨任の待遇改善 3月の専門部交渉では、前の課長が扶養手当について「継続的に財政当局にはたきかけていきたい」と回答したが、その姿勢は変わっていないか。

組：全国的にもできる県は増えてきている。そういう流れから長崎は遅れている。雇用入れ時の健康診断の公費負担も要求してきているが、若年層検診事業を臨任まで拡大すれば、臨任を連続する場合の自己負担はなくなる。教育長は「臨任の人も含めて気持ちよく働いてもらうよ

うに、改善できるところはとどろく」と回答したのだから、具体的な改善を実現すべきだ。

○現給保障の延長 前回の交渉で教育長は「1万円も下がるのは大変だというのが分かるので、どういう工夫があるのか、ないのか」と回答したが、「給与構造改革」の時の現給保障は、段階的に減らした。今回は何もないという事にはできないはずだ。

県：前回は人事委員会から段階的な減額という報告が出た。今回は「3年でやめる」という報告。そこが大きく違う。できることはやるという意味で教育長は発言していると思うが、現実的には非常に厳しい。



憲法3000万署名で広がる共同行動 「自衛隊の変質と感じる」と署名に賛同する青年も



鉄橋での集会で訴える大場県労連議長

高教組が参加している「憲法改悪阻止長崎県共同センター」と、平和運動センターなどが参加している「戦争への道を許さない！ながさき1001人委員会」、そして「長崎県9条の会」の3団体は、「安倍9条改悪NO！憲法を生かす全国統一署名(憲法3千万署名)」を県内で広げるために、共同してとりくみをすすめることを確認し、最初の統一行動として、11月19日に、集会和署名活動を実施しました。



ハマクロス前の署名活動

午後1時から、長崎市の浜の町アーケード入り口の鉄橋で開かれた集会では、各団体の代表者がリレートークを行い、大場県労連議長(前高教組委員長)も「憲法3千万署名を大きく広げよう」と訴えました。この集会には約150人が参加し、「9条改悪NO！」「憲法を守り生かせ！」などのプラカードを掲げて、通行する人たちにアピールしました。

集会終了後は、鉄橋とハマクロス前に分かれて署名活動を行いました。憲法共同センターには27人が参加し、約1時間で168筆を集約しました。署名をもらった中では、「自衛隊の変質を感じてる。署名に賛同します」と語った20代の青年や、とりくみの大切さを理解して「よろしくお願います」と頭を下げた若い夫婦の姿もありました。この集会と署名活動に、高教組からは4人が参加しました。

福岡・朝倉に ボランティアに行こう

青年部が動き始めました。秋の教研終了後、諫早市で青年部役員を中心に集まり、今年度の青年部の活動について意見交換を行いました。8月の青年部総会及び「しゃべり場」のなかで、社会に貢献したいという意見がでて、ボランティア活動を考えてみようとなりました。昨年4月の熊本大地震、今年の夏の九州北部豪雨と自然災害による甚大な被害を受けています。ニュースの量は少なくありませんが、まだまだ完全復旧はしていません。どれだけのことをできるかは分かりませんが、何かをしたいという思いで、長崎高教組青年部でボランティアに行きま



豪雨直後の朝倉市

卒業式が終了し、高校入試の前で少しゆとりがあるかなと思える3月3・4日、青年部の先生方には、「青年部通信」を送付しています。ボランティア活動の事前学習会を実施します。時：12月16日(土) 午後2時より 所：高教組会館 朝倉市の現状と、熊本でのボランティア活動を続けている方の報告を予定しています。学習会の後に、青年部の忘年会も予定しています。「青年部通信」をよく読んで、学習会、そして「あさくらボランティア」への参加をよろしくお願います。若い力を待っています。

